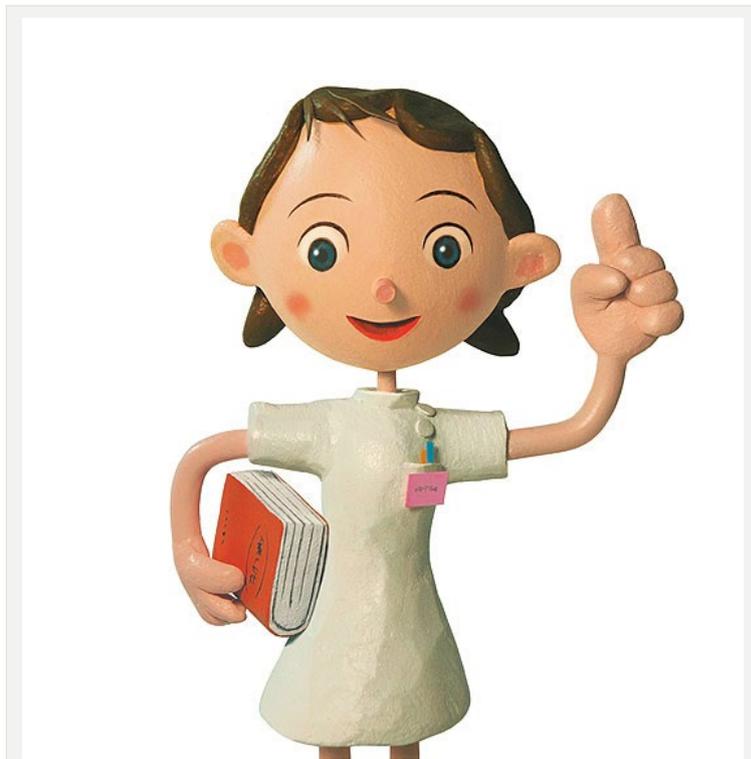


# *Teaching Portfolio*

## *2023*



佐賀大学 ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ  
2023年3月22日(水)更新

佐賀大学 所属

生涯発達看護学講座  
武富由美子

sp7014@cc.saga-u.ac.

## I. 教育の責任

私は生涯発達看護学講座に所属し、成人看護学において主に手術を受ける患者や救急医療や集中治療を受ける患者や家族の看護を担当している。成人期にある対象者の特性と健康問題の特徴を理解し、看護計画を立案し、臨地実習で実際に実践し評価することで、支援の方法やエビデンスについて振り返り、社会復帰を見据えた継続した看護を考える教育を行っている。また、社会に対する幅広い視野を持ち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる人材の育成に努めている。

授業科目名	コマ数	開講年度	対象	人数	種別 単位数	授業形式
医学・看護学研究の勧め	1	2019	医学部 1年	100	必修 1単位	講義
成人看護学概論	5	2020-2022	看護学科 2年	60	必修 1単位	講義・演習
成人看護援助論Ⅰ	7	2019-2022	看護学科 2年	60	必修 1単位	講義・演習
成人看護援助論Ⅲ	2	2019-2022	看護学科 2年	60	必修 1単位	演習
キャリアデザイン	5	2020-2022	看護学科 2年	60	必修 1単位	演習
成人・老年看護学演習	11	2019-2022	看護学科 3年	60	必修 2単位	講義・演習
フィジカルアセスメント	4	2019-2022	看護学科 4年	40	選択 1単位	講義・演習
重症・救急看護学	4	2019-2022	看護学科 4年	40	選択 1単位	講義・演習
地域医療支援論	4	2019-2022	看護学科 4年	60	必修 1単位	講義・演習
医療安全論	1	2019-2022	看護学科 4年	30	選択 1単位	講義
卒業研究	60	2019-2022	看護学科 4年	3	必修 4単位	演習
成人看護学実習	240	2019-2022	看護学科 3年	60	必修 6単位	実習
統合実習	40	2019-2022	看護学科 4年	10	必修 2単位	実習

老年看護学実習	4	2020-2022	看護学科 3年	60	必修 4単位	実習
---------	---	-----------	------------	----	-----------	----

- 大学院教育
  - 急性期看護学特論
  - 特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

## I. 教育の理念

### ➤ 自ら学び、考えて実践できる看護職者の育成

『自ら学び、考えて実践できる』看護職を育成したい。看護の対象は人間であり、日常生活を送っている生活者とその家族である。対象を取り巻く社会や環境は変化し医療も進化していくため、看護職者には基本的な知識や技術を習得したうえで、柔軟に応用できる力が求められる。人は様々な環境の中に置かれている。人を取り巻く社会学、環境、文化や芸術、自然、保健・福祉・医療の動向などを理解すること、言語、情報、ICT技術などを用いた情報収集能力をつけること、心理学、解剖生理学、病態疾病論、看護理論や看護過程などの方法論や看護技術などの基本的な知識や技術を習得する必要がある。病院や保健所、在宅などの臨地実習で学生が対象者と対峙し看護について考えることは貴重な体験であり、具体的な実践方法も学べる。しかし学部教育は4年間であり、学べることには限界がある。看護職者として実際に仕事についてから、対象者から学ぶことの方がむしろ多い。多様な価値観のある人や家族を対象としているため、看護職として就職した後も生涯にわたり学んでいくために、自分で学び、考える力を育てていく必要がある。

## II. 教育の方法

### 1. 論理的な思考を育てる

アクティブラーニングを基本的には取り入れている。対象の理解の一部として「成人看護学概論」では、人の発達段階と発達課題を担当している。実際に身近な成人期にある対象者のインタビューを通して、その人発達課題は何か、役割や価値、健康問題はあるかなど、個人のレポートを基に（エビデンス 1）、グループワークや全体での討議を通して再度最終個人レポート（エビデンス 1）を課している。

2年次「成人看護学援助論Ⅰ」では手術を受ける患者の看護について、事例を基に既習の解剖生理や疾病の復習を事前に準備することをアナウンスしている。また、個人課題を基に（エビデンス 1）、グループで関連図を作成し、問題の機序や症状などを考えさせ、看護計画立案の根拠を押さえる過程を踏んでいる。3年次「成人・老年看護学演習」では「成人看護学援助論Ⅰ」の事例を用いた看護過程を基に、個人課題を基に講義で全体にフィードバックしている（エビデンス 2）。さらに個人で振り返る時間を講義時間内に確保し、質問への

対応を行っている。授業終了後の感想用紙や質問に対しては、Teams や次の講義で回答し学生の学習意欲を向上させ、思考過程を強化できるように取り組んでいる。学習の評価はレポートと記述試験（エビデンス 3）を課し、理解度を確認している（エビデンス 1）

## 2. 論理的な思考と実践を繋ぐ教育

急性期実習では術後の患者の観察を行うが、学生の緊張が強い。また、観察項目はわかっているにもかかわらず観察の方法がわからない場合が多い。そのため、思考過程と実践を繋ぐため、3年次実習前に事例を模した「シュミレータ」の活用を行い、観察方法を確認している。さらにシュミレータから得た観察結果をアセスメントし（エビデンス 1）、講義でフィードバックしている（エビデンス 2）。この学習のプロセスは、臨床実習で実践を行う基盤となっている（エビデンス 4）。

急性期実習では、救急や重症患者を対象とする実習前にフィジカルイグザミネーションの技術を復習している。学生がグループでフィジカルイグザミネーションの項目ごとにプレゼンし、全体でシュミレータやモデル人形などを用いて手技や方法を確認し、実習で看護師の指導のもとに実践するようにしている（エビデンス 5）

臨床実習では、実習前に病棟師長や実習指導者と調整を行い、学習環境を整えている。思考過程については実習記録や実習指導者からの助言をもとに日々リフレクションを行っている（エビデンス 6）また、実際に学生が行った看護の妥当性についてのカンファレンスや実践の評価ができています（エビデンス 6）。実習最終日に看護実践検討会を行い、他病棟での事例検討を行い、他者の意見や考えを共有し自己の看護観に寄与している。

## III. 教育の評価

	総合的満足度	授業科目の重要性の程度	授業内容への興味の程度	授業の編成や内容における一貫性、統合性の程度	講義の工夫、資料等の活用・有効性の程度	配分時間の妥当性	学生が主体的に学べる工夫	遠隔授業の満足度
成人看護学概論								
2019年度	4.5	4.6	4.4	4.5	4.5	4.4		
2020年度	4.3	4.5	4.2	4.3	4.1	4.1	4.4	4.0
2021年度	4.7	4.8	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.6
2022年度	4.5	4.6	4.4	4.5	4.4	4.5	4.7	4.4
成人看護援助論 I								

2019年度	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.4		
2020年度	4.3	4.7	4.3	4.4	4.2	4.2	4.5	4.1
2021年度	4.7	4.8	4.5	4.7	4.8	4.6	4.7	4.5
2022年度								
成人・老年看護演習								
2019年度	4.9	4.9	4.8	4.8	4.9	4.8		
2020年度	4.4	4.7	4.4	4.5	4.6	4.4	4.3	4.2
2021年度	4.6	4.8	4.5	4.6	4.6	4.3	4.5	4.3
2022年度	4.8	5.0	4.7	4.9	4.9	4.8	4.8	4.5
フィジカルアセスメント								
2019年度	4.8	4.9	4.7	4.8	4.7	4.7		
2020年度	4.4	4.8	4.7	4.6	4.5	4.2	3.2	4.1
2021年度	4.4	4.7	4.6	4.5	4.8	4.4	4.8	4.4
2022年度	4.7	4.5	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.6
重症・救急看護学								
2019年度	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8		
2020年度	4.7	4.8	4.6	4.6	4.4	4.5	3.6	4.4
2021年度	4.4	4.7	4.5	4.5	4.4	4.3	4.6	4.3
2022年度	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.3	4.4
成人看護学実習								
	総合満足度	重要性	興味の程度	一貫性、統合性の程度	工夫活用有効性	時間の妥当性	実習環境の充実性	遠隔授業の満足度
2019年度	4.8	5.0	4.7	4.9	4.8	4.8	4.9	
2020年度	4.6	4.8	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.5
2021年度	4.7	4.9	4.6	4.8	4.8	4.7	4.7	4.5
2022年度	4.9	5.0	4.7	4.9	4.9	4.8	5.0	4.9

評価（1. 低い、2. やや低い、3. 中間、4. やや高い、5. 高い）

## 教育の成果

- 臨地実習の中で、卒業生が実習指導者や指導看護師として、学生へエビデンスを踏まえたフィードバックをし、後輩の指導をしてくれる姿をみると、「自ら学び、考えて実践できる」看護師の育成はできているように感じる。
- 2018年度より「成人看護学実習」の中の「急性期看護実習」でクリティカル領域実

習（救急医療や集中治療下にある患者の看護）を取り入れたが、患者の尊厳を守ることの大切さや代理意思決定、身体拘束などの倫理的な問題などについても考えることができていた。

#### IV. 短期目標

- 2019 年度より大学院修士課程の「急性期看護学特論」で、救急領域における終末期の患者や家族のケアを担当するため、自己研鑽し、年度毎に学びを深めていきたい。  
→文献検討や救急・集中治療領域の学会、大学院生の研究検討などを通して自己研鑽できた。
- 2023 年度以降の短期目標
  - ① 急性期看護学領域の論文作成を行いたい
  - ② 学部学生の教育について、学生自ら思考できる時間を確保する

#### V. 長期目標

- 大学院生とクリティカル領域の看護に関する研究を行いたい。  
→2023 年 3 月現在、今後論文を作成するテーマと研究を進める 2 件のテーマがあるため、指導教員・大学院生と共に進めていく。

#### ➤ エビデンス

1. 課題レポート
2. 講義資料
3. 試験の結果
4. 学習要項
5. 急性期実習のガイド
6. 実習記録
7. 看護実践検討会資料